

## (仮称)第2次札幌市 ICT 活用戦略 検討有識者会議

### 議事要旨

#### 【議題1】座長の選任

- ・委員の互選により、古見彰里氏を座長に選任した。

#### 【議題2】(仮称)第2次札幌市 ICT 活用戦略の策定スケジュールについて

- ・有識者会議の第3回以降、議会やパブリックコメントで出された意見についての議論も必要になることもあると思うので、柔軟に対応いただきたい。
- ・現戦略やその成果がわかる資料があると有意義な意見が言えると思うので、共有いただきたい。
- ・ICTにはレベル感がいろいろあると思う。札幌市のICT活用戦略を考える場合に、どのような幅や深さで議論していくのかを考えながら検討するべきだと思う。

#### 【議題3】(仮称)第2次札幌市 ICT 活用戦略について

- ・AIなどの技術の進展によって、前回の戦略策定時に比べて求められるスキルが変わってきている。このように求められるスキルが変わってきていることを踏まえて戦略を議論していきたい。
- ・社会の大きな変化に対してICTをどう活用して、未来を考えていくかということが重要。少子高齢化の波に積極的に立ち向かうのか、少子高齢化は避けられないとして受け身で対応するのか。これによって、ICTの活用も力点が変わってくると考える。
- ・人口推計の結果は大きく変わらないと考える。少子高齢化・人口減少を前提としてどう社会を構想していくかが必要。
- ・課題を示して終わるのではなく、どこを目指すか、方向性を明確化したい。例えば、育児介護休業法が改正され企業はテレワークが努力義務になり、在宅で働きたい人も増えてくるはず。このことに企業がどう対応するか。さらに、人材不足についてもテレワークで雇用できれば札幌の企業の人材不足が緩和されることもあるだろう。このような具体的な視点が欲しい。
- ・アンケートについては、よくあるICTアンケートと同じでは意味が無いと思うので、市民がどうしたいかが分かるような設問を検討していただきたい。テレワークについて「今どのような働き方をしているか」の設問をいれていただきたい。
- ・デジタル技術が進歩しており、やりたいことはたいてい出来るようになっている。何が問題で何がやりたいのかが分かる柱があると議論しやすい。また、デジタル技術の進化のスピードに合わせて、計画期間の8年の間に柔軟に計画を見直して行く視点も重要だろう。
- ・これまでどういうところで行政サービスが向上したと評価しているか、いま何が足りなくて問題となっているかを理解して議論につなげたい。また、今後、利便性向上とはどういった状況を指すのか、具体的な数値等があると実効性のある戦略になると思う。
- ・アンケートをLINEと紙で実施するとあるが、やり方次第でバイアスがかかることもあるので注意いただきたい。スマホ利用者ばかりの意見にならないように配慮して欲しい。
- ・前の戦略のアンケート結果を見ると、札幌市の情報化施策で注意すべき点として「個人情報やプラ

イバシーの保護」が一番多い。ユーザーを守る、ユーザーを支援する視点が必要。プライバシーの問題は情報が漏れないことも重要だが、自分の情報にいつ誰がアクセスしたのか、どんな情報を役所が持っているのかを知ることができるというのも重要。

- 大きな目標を立てていただきたい。海外では引越し時に1通の申請メールを出せば電気やガスなどの手続きが終わるサービスもあると聞く。全ての手続きがオンラインで可能になるといった目標があっても良いと思う。
- アンケート調査を過去にも実施していると思うが、これらがどう反映されていたのか。調査を実施するのであれば、市民が悩んでいる部分などを戦略に反映できることが必要だと思う。女性の活躍ということが数年前から言われており、共働きも増えているが、毎日疲弊して家事が全くできないという声もある。オンライン化が進むだけでも随分楽になる。市民のためにこういった ICT を活用すれば便利になっていくか考えていきたい。
- オープンデータの利活用がなかなか進まないのは、どのようなデータがあるのか分からないから使えないということがあるだろう。データを蓄積できる仕組み作りが必要。蓄積されたオープンデータとリアルタイムのデータを横につなぐことで利便性があがることも想定されるので、ここも議論することが良いと思う。
- オープンデータプラットフォームは様々な機関が保有しているが、横連携が出来ていない。連携することでより良くなっていくはず。また、うまくやっている自治体の取り組みをどんどん真似すると良い。少ないリソースで成果を出していくためには、より集中していくべき。札幌だからできること、やらねばならないことに注力すべきだろう。
- 2020 年との対比を明確化していくべき。この 5 年間で特に大きく進歩したのは AI。特に生成 AI などの先進技術をどう使っていくかは明記すべき。
- 5 年の間に生成 AI が出てきたことで、求められる人材の質が変わってきた。エンジニアだけではなく、よりリテラシーを持った人をどう育成確保していくか。もっと AI やデータのリテラシーのある人材を育てたい。スキル、リテラシーを上げていかないと、データ利用の出口側の議論が進まない。市民や企業に何を伝え、何を仕掛けていくかも検討すべき。

以上